

大学運営会議議事録

開催日 令和5年6月8日(木) 午後2時00分から午後2時47分まで
及び場所 特別会議室 Web (ZOOM) 会議同時実施

出欠状況 出席:37名 欠席:3名

1 協議事項

- (1)生涯健康科学ジャーナル (Journal of Lifelong Well-being Sciences) の創刊
- (2)教員データベースの改変について

2 報告事項

- (1)2023年度 オープンキャンパスの実施について
 - ① 静岡県立大学
 - ② 静岡県立大学短期大学部
- (2)2023年度 高校教員対象入試説明会について
 - ① 静岡県立大学
 - ② 静岡県立大学短期大学部
- (3)令和6年度 科学研究費助成事業獲得に向けた取り組みについて
- (4)「静岡県立大学 研究シーズ集 2024」の作成について
- (5)地(知)の拠点事業(COC事業)「地域を志向した研究」の公募
- (6)講演会「ジェンダー・イノベーションとは何か?」の開催について

- ・前回議事録(案)の確認

令和5年5月の大学運営会議議事録(案)について、案のとおり承認された。

1 協議事項

- (1)生涯健康科学ジャーナル (Journal of Lifelong Well-being Sciences) の創刊

(説明者: 渡邊副学長)

人々が生涯健康であり続けるため、生命科学と人文社会科学の異分野にわたる学際的な研究成果を国内外に発信し、生涯の健康に携わる多様な分野の実践知あるいは研究成果により、安全安心な質の高い人々の社会に貢献することを目的として標記のジャーナルを創刊する。このジャーナルは、本学の理念に基づく目標である「静岡県の最高学府としての自覚を持ち、独創性豊かで高い学術性を備え、国際的な評価に耐え得る研究を推進し、その成果を地域に還元する」ことに資するものとする。

創刊の経緯は、教員の教育研究業績を精査する際に査読のない紀要に掲載されている論文が散見され、教員審査の正当な評価が受けられないということが確認されたため、正当な評価を受けられるよう、査読付きジャーナルの創刊をすることに意義があるのではないかと考えたことによる。

ジャーナルの内容は、新規性の高い知見を迅速に掲載する、査読付きオープン・アクセスジャーナルとする。論文は和文とし、投稿者は本学教職員及び学生、または本学教職員の推薦がある者。論文の種別は、論文 (Research Paper)、解説 (Review)、症例報告 (Case Report) の3種類とする。

生涯健康科学ジャーナル事務局を附属図書館に設置し、「生涯健康科学ジャーナル編集委員

会」を組織する。編集委員会の編集委員長は静岡県立大学附属図書館長を充て、編集委員は学内教員から選任する。

投稿・審査・査読・掲載について、投稿料、掲載料は無料とする。投稿要領、審査方法等は、投稿要項、編集委員会設置要項、審査要領で規定する。投稿論文は編集委員会で受理し、委員会が選定した査読委員が査読する。論文は1か月程度で査読し、アクセプトされた論文は J-STAGE で公開する。

投稿の受付開始時期は論文受付体制が整い次第、速やかに本学ホームページにジャーナルページで公開し、周知する。

<意見>

・投稿料、掲載料が無料という点について、依頼者本人から徴収しないということは、財源が他にあるということか。例えば、外部査読者への依頼費用あるいは投稿時の剽窃チェック、インセンティブ(報奨金)など様々あると思うが、そのような費用が発生する場合の財源は何か確保されているか。(構成員)

<回答>

・極力経費を抑えるようにということで、投稿しやすい、校閲しやすいテンプレートを作成し、簡易的な方法としたい。また、外部査読等ではなく、学内の教員にそれぞれの専門分野を査読していただくことや、学外の場合も何らかの形で静岡県立大学に関与する先生方をお願いすることを考えている。査読料は、図書カードやクオカード程度を想定している。(説明者)

・全学的なジャーナルということで進めていければと考えている。経費として、現在の想定では査読者への謝礼のみで J-STAGE への登録は無料であり、それらに関わる作業も事務局もしくは各担当で対応可能なため、当面はそのような費用はかからないと考えている。剽窃チェックについては、査読者あるいは編集委員で個別に対応いただく部分が大きいと思うので、今後の検討課題とさせていただきたい。(構成員)

<意見>

・1つ目は、編集委員会の委員は学内教員から専任とあるが、図書館情報委員会の委員とは別立てで設置されるということか。もしくは、情報委員会の委員が兼ねることを想定しているか。

2つ目は、短期大学の教員の論文投稿は可能か。また、短期大学部図書館関係の委員についても、何かの形で編集委員会に関与するのか。

3つ目は、短期大学部では研究紀要に関する改正により、査読システムを導入しようとしたところではあるが、生涯健康科学ジャーナルの査読システムとは同時並行で考えていく必要があるということか。(構成員)

<回答>

・1つ目について、図書館情報委員会との兼任ということは考えておらず、別途編集委員会を設置する。

2つ目について、短期大学の教員の投稿は可能であり、短期大学の教員にも編集委員会に属していただきたいと考えている。

3つ目について、短期大学の紀要の取扱いは、再度検討いただくかどうかなど、柔軟な対応をお願いする。

本件は、新しいジャーナルに投稿いただきたいという趣旨で、御理解をいただきたい。(説明者)

<意見>

・紀要と合流させることを明確に考えているということであれば、短期大学の教員に理解を求めるステップが必要になってくると思う。（構成員）

<回答>

・査読付き論文を「モノ」にするという仕組みを作るということで、御理解いただきたいと思う。紀要とは別に考えていただきたい。（議長）

協議事項(1)について承認された。

(2) 教員データベースの改変について（説明者：藤村教育研究推進部長）

現在の教員データベースに記載されている業績等の紹介について、令和5年10月以降はresearchmapへのリンクに切り換えさせていただきたい。

改変理由は、教員データベースの業績掲載等とresearchmapの内容は重複している部分が多く、研究費申請時も基本的にはresearchmapの業績のデータが活用されているからである。その他、新規採用した研究者の業績をすぐに把握し、データベースにも反映できるという点や教員データベースへの入力と保守を考慮し、コスト削減もできるという点も挙げられる。他大学でも教員データベースの業績等をresearchmapで対応しているという実態もあり、本学としても改変したいと考えている。

researchmapに掲載されている所属学会、経歴、受賞歴、学会発表等については、教員データベースにおいて情報内容を省略する。また、現在各教員の英語サイトを設けているが、同サイトには引き続きresearchmapのリンク貼り付け対応をする。併せて、英文履歴書(CV)のリンクについては残す形とする。なお、新規掲載や更新についての案内は、希望する教員に限って対応する。

教員データベース改変に伴う留意事項として、researchmapの登録、更新の管理については、随時御自身での対応をお願いする。また、令和5年10月1日以降、教員データベース及び英語サイトの項目変更作業を実施するので、御承知いただきたい。researchmapについては現在約70%の教員に登録いただいているが、未登録の方については9月末までに御登録をお願いする。

<意見>

・基本的には賛成だが、情報の移行項目について全てをresearchmapに移行した場合、同サイトを確認しないと教員の活躍や活動状況が分からないということになってしまい、大学広報において以前よりも劣化してしまうのではないかと懸念している。一部は教員データベースに残すなど、移行する項目について再度検討をお願いする。（構成員）

<回答>

・研究業績や著書、学術論文などについてはresearchmapで管理することを想定していたが、社会活動、受賞歴などについては、教員データベースにも残すということも検討したい。（説明者）

<意見>

・researchmapはデータを取り込み、教員データベースに情報を移すこともできたと思うが、それを行うことは考えていないか。また他大学の情報によると、オリジナルフォーマットを作成するこ

とで、簡単に取り込むことができると聞いたことがあるかどうか。（構成員）

<回答>

・現時点では researchmap からデータを取り込み、教員データベースへ情報を移すということは考えていない。オリジナルフォーマット作成については調査し、取り込むだけの作業で情報を輕易に登録できるという場合には、対応を検討したいと思う。（説明者）

協議事項(2)について承認された。

2 報告事項

(1) 2023 年度 オープンキャンパスの実施について

① 静岡県立大学（説明者：細川学生部長）

今年度のオープンキャンパスは、昨年度の双方向型企画を拡大し、キャンパスツアーを含んだ「キャンパス来場型企画」と Zoom ミーティングを利用した「ライブ配信のオンライン型企画」を各学部で選択し、実施する。また、双方を取り入れたハイブリッド方式の実施も可能とする。なお、双方向型企画はそれぞれ人数制限を設ける。また昨年同様、本学ホームページ上にオープンキャンパスの特設ページを作成し、動画コンテンツを掲載する。

実施内容として、双方向型企画については完全予約制の先着順とし、薬学部が午前・午後の実施で各 500 名ずつ。その他の学部は、500 名を上限として実施する予定。なお、保護者の参加については、現在オープンキャンパス委員会で検討している。

「キャンパス来場型企画」の実施日時は各学部で異なり、各々設定している。「オンライン型（ライブ配信型）」を含むハイブリッド方式を採用するのは、食品栄養科学部のみの予定。

「バーチャル・オープンキャンパス（動画コンテンツ掲載）」については、掲載場所を本学ホームページ上の特設サイトとし、学部独自のホームページの掲載も可とする。掲載期間は、7月上旬から年度内を予定している。また、掲載を限定するコンテンツに関しては、学部ごとに判断していただく。掲載内容については基本的に学部ごと検討していただくが、学部紹介、学生インタビュー、模擬事業、その他内容については、オープンキャンパス実施委員会で現在検討中である。

最後に、保護者の参加を認めた場合の上限人数についても、薬学部の場合には 1,000 名、他学部の場合には 500 名とし、変更しない形での検討をお願いしている。

<意見>

・昨年度、バーチャル・オープンキャンパスや特設サイトを作る際に非常にコストがかかり、共通予算から何とか費用を捻出したという実情がある。バーチャル・オープンキャンパスに関しては準備段階でコストがかかり、インタビューや模擬授業、それらの動画作成、コンテンツ制作において多額の費用が発生することから、何か手当をしていただけるとありがたい。（構成員）

<回答>

・具体的にどのような対応ができるかということ、この場では申し上げられないが、確認次第回答する。（説明者）

・入試室に確認したところ、今年度は新たに「オープンキャンパス運営経費」を要求し、予算を確保しているという回答を得た。学部ごとに予算配分があるので、その予算を使用いただきたい。そ

の他、学生アルバイトを雇う場合にも、同予算を使用いただくようお願いする。（構成員）

② 静岡県立大学短期大学部（説明者：林短期大学部学生部長）

今年度は対面式と動画配信での開催を予定している。

対面式の開催日は7月29日（土）、午前・午後の二部制とし、定員は各170名とする。定員の考え方として、コロナ等の問題はなく、昨年度の実績及び学科ごとのイベント内容を考慮し、170名程度が良いという意見でまとまったことから、今年度も昨年度同様の定員で設定する。開催内容については、昨年度と同様の形で進めていく。

動画配信については、入試説明、学科紹介、模擬講義等を公開する。従来は8月下旬の県民の日に合わせて動画を公開していたが、対面式のオープンキャンパスの1週間後からということで、公開開始日を変更した。入試説明及び学科紹介については翌年3月31日までの公開とし、模擬講義については11月末に学校推薦型選抜があるため、その時期までの公開とし、11月30日までの公開とする。

(2) 2023年度 高校教員対象入試説明会について

① 静岡県立大学（説明者：細川学生部長）

高校教員対象入試説明会の目的は、静岡県立大学の学部及び入試方法について、高等学校の教員に情報提供を行うとともに、高等学校と大学との連携を図ることとしている。

開催方法は、コロナ禍から継続してきた動画配信とする。単純なコロナの問題ではなく、動画配信とすることで県外の高校からも参加しやすいという理由により、動画配信の継続を決定した。配信開始予定日は6月30日（金）とし、年度内までを公開期間とする。

次第は第1部に各学部から学部説明。第2部に2024、25年度の入試についての入試説明。第3部に昨年度（2023年度）の一般選抜個別学力検査の問題に関する概要説明を行う。なお、看護学部は一般選抜において個別の学力記述試験がないため、問題概要説明は実施しない。

質問事項は参加予定者から事前に受け付ける形としている。

② 静岡県立大学短期大学部（説明者：林短期大学部学生部長）

短期大学部では6月29日（木）午後に説明会を開催する予定としている。

次第のとおり、内容は概ね昨年同様としているが、今年度は新たに施設見学を項目に追加した。進路指導担当の先生方に本学の施設を見学していただき、施設は魅力の一つでもあるため、アピールしていきたいと考えている。

令和3年度の参加校は36校、昨年度の参加校は26校と減少傾向にはあるが、各高校にアピールし、少しでも参加校が増えるよう努める。

(3) 令和6年度科学研究費助成事業獲得に向けた取り組みについて（説明者：酒井理事兼副学長）

来年度の科研費募集が7月14日（金）から開始される予定であり、その対応として公募要領等の説明会を8月1日（火）に開催し、獲得に向けた取組を実施する。若手の先生や慣れない先生などは、この機会を積極的に御利用いただきたい。

説明会開催日時は8月1日（火）13時から15時とし、今年度は日本学術振興会から講師を招き、制度説明をしていただく。昨年度は草薙キャンパスと小鹿キャンパスの2回開催としたが、今年度

は1回のみ開催とするため御注意いただきたい。都合がつかない場合には YouTube で学内配信するので、御活用いただきたい。

最後に、科研費応募に採択されなかった場合、上限 200 万円として本学から研究費を配分する仕組みもあるので、多くの教員に科研費の申請をしていただくようお願いする。

(4) 「静岡県立大学 研究シーズ集 2024」の作成について（説明者：酒井理事兼副学長）

例年どおり今年度も研究シーズ集を発行する。今年度、新たに採用された教員、または昨年度の研究シーズ集に掲載してない教員については、この機会に積極的に掲載を御検討いただきたい。

今年は新たに、研究者個人の SDGs への取組について、研究シーズ集の各ページ右上にアイコンを掲示するので、こちらも積極的に御活用いただきたい。

具体的な内容は作成要領などを後日送付するので、各自御確認いただき、作成をお願いする。

(5) 地（知）の拠点事業（COC事業）「地域を志向した研究」の公募

（説明者：合田「ふじのくに」みらい共育センター長）

趣旨のとおり、「ふじのくに」みらい共育センターでは、地域貢献、地域課題の解決等に資する、今年度の地域を志向した研究の公募を開始している。

対象者は、静岡県立大学及び短期大学部の全ての教員。研究課題は自由課題とし、条件を3つ定めている。配分金額は1件当たり20万円以内、採択件数は10件以内とし、予算の範囲内で採択件数及び配分額を調整する。

手続方法は、既に教員全員にメールで配信しているので、申請書を御覧いただきたい。6月12日までの受付とし、結果は7月上旬までに連絡する。

(6) 講演会「ジェンダード・イノベーションとは何か？」の開催について（説明者：富沢副学長）

グローバル地域センターは開設以来、アジアの消費行動の多様性についてのプロジェクトを進めており、今回は「ジェンダー」に焦点を当てたテーマとして、グローバル地域センター企画の講演会を開催する。

「ジェンダード・イノベーション」とは、世の中の商品や生産品などがいつの間にか男性規格のものとなり、女性には不都合なものが多いということで、再検討が迫られているという現状がある。それらを踏まえて考え直し、改めて商品や生産品を開発していくことで、新たなイノベーションが起きてくるのではないかと期待のもと、ジェンダード・イノベーション研究所が立ち上げられた。

今回は、お茶の水女子大学理事兼副学長及び同大学ジェンダード・イノベーション研究所長である石井クンツ昌子先生を講師に迎え、「ジェンダード・イノベーションとは何か？」というテーマで講演いただく。

「ジェンダード・イノベーション」の考え方を御紹介いただき、本学に情報共有していただく。本学のSDGsイニシアティブ推進委員会、男女共同参画推進センターの共催という形で、自然科学、人文社会科学全体にわたる広い話が伺えると思うので、多くの方に御参加いただきたい。

担当：経営財務室 市野 雄基